

下水道の日

作品コンクール

入賞作品集



第56回



埼玉県のマスコット コバトン



埼玉の下水道マスコット



埼玉県のマスコット
さいたまっち

クマムシくんとなかまたちは、「埼玉の下水道マスコット」です。
下水処理場で、汚れた水をきれいにする微生物をキャラクター化しました。

このマスコットは、「下水道展'15 東京」で開催された
全国下水道マスコット総選挙で第1位を獲得しました。

主催 埼玉県、埼玉県下水道協会、公益財団法人埼玉県下水道公社

後援 埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会

presented by 彩の国
埼玉県

公益財団法人埼玉県下水道公社
Saitama Sewage Systems Agency

PRINTED WITH
SOY INK
環境にやさしい大豆インキを使用しています。
再生紙を使用しています。

このたび、埼玉県流域下水道50周年記念「下水道の日」作品コンクールとして、標語・ポスター・書道及び作文の募集を行ったところ、多くの皆様から数々の優れた作品の応募をいただき、厚く御礼申し上げます。



9月10日は 下水道の日

下水道は、風呂やトイレ等で使った水をきれいにして川に戻します。そのため、川や海の水質環境保全やトイレの水洗化による悪臭、蠅や蚊など害虫の発生を抑制するなど、人々が清潔で快適な生活のためになくはならない都市基盤施設です。また、都市に降った雨水を集めて流すことにより、浸水から街を守っています。

「下水道の日」は、1961年(昭和36年)に下水道の普及およびアピールを図るために「全国下水道促進デー」として定められたものが始まりです。

当時は下水道の普及が著しく遅れており、また経済が高度成長した反面、生活環境や公共用水域の悪化が著しくなっており、下水道の整備・促進に対する要望が高まっていました。

それから40年が経過し、2001年(平成13年)が21世紀のスタートの年でもあることから、より親しみのある「下水道の日」に名称が変更されました。

9月10日と定められたのは、下水道の大きな役割の一つである「雨水の排除」を念頭に、台風シーズンである210日を過ぎた220日(立春から数えて)が最適であるとされたためです。

毎年、9月10日を中心とした前後1週間に、下水道に対する理解や関心を深めていただくため、下水道事業者である地方公共団体などが様々な催しを全国で開催しています。

埼玉県においては、埼玉県、埼玉県下水道協会および公益財団法人埼玉県下水道公社の三者が共催し、「下水道の日」の記念事業として、「作品コンクール」や水循環センターを見学する「下水道の日の集い」を実施しております。

埼玉県流域下水道 **50周年** 記念



「下水道の日」
作品コンクール



入賞作品集

標語部門

..... 2ページ

ポスター部門

小学校低学年の部 3ページ

小学校高学年の部 4ページ

中学生の部 5ページ

書道部門

小学校低学年の部 6ページ

小学校高学年の部 7ページ

中学生の部 8ページ

作文部門

小学校高学年の部 9ページ

中学生の部 12ページ

埼玉県知事賞

下水道人・まち・水のハーモニー

本庄市在住

福島進

埼玉県下水道事業管理者賞

50年！かがやく流域 夢・未来

本庄市在住

福島美佐子

埼玉県下水道協会会長賞

下水道 町のキレイの 立役者

さいたま市立本太中学校二年

小島悠杜

入選

げすいから きこえるひめい あぶらいや

羽生市立三田ヶ谷小学校一年

西野嘉人

入選

実力は 地下で見せます 下水道

越谷市在住

大塚恵子

入選

みらいへは すんだ下水で バトンリレー

久喜市立太田小学校一年

杉谷弥音

入選



深谷市立上柴東小学校 2年 埴みなみ

埼玉県知事賞



行田市立東小学校 1年 久米 あかり

入選



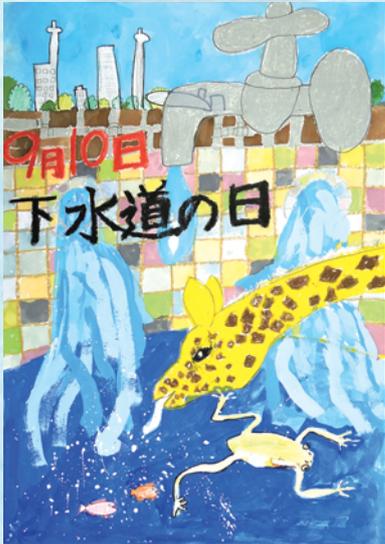
川口市立十二月田小学校 2年 吉田 大晴

埼玉県下水道協会会長賞



深谷市立上柴西小学校 3年 早野 壮哉

入選



さいたま市立大宮南小学校 3年 小島 明未



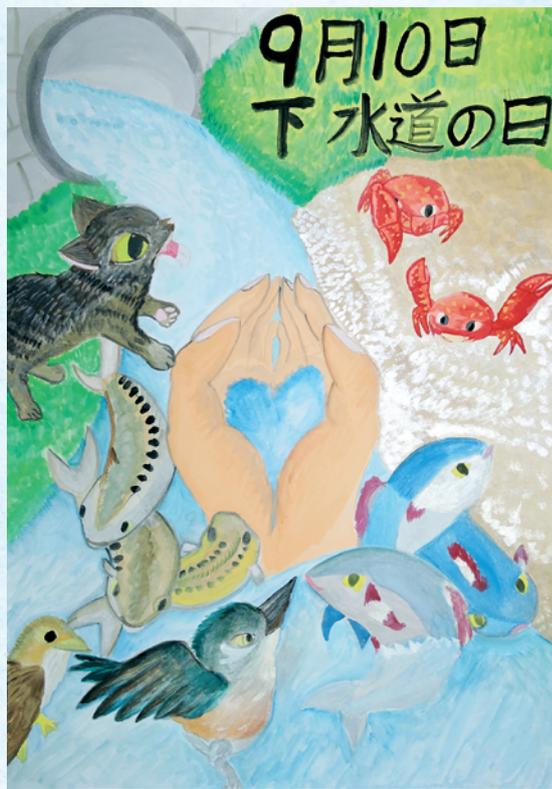
埼玉県下水道協会会長賞



寄居町立用土小学校 5年
清水 心大



埼玉県知事賞



春日部市立幸松小学校 6年
河合 望美



入選



深谷市立上柴西小学校 5年
福富 由椰



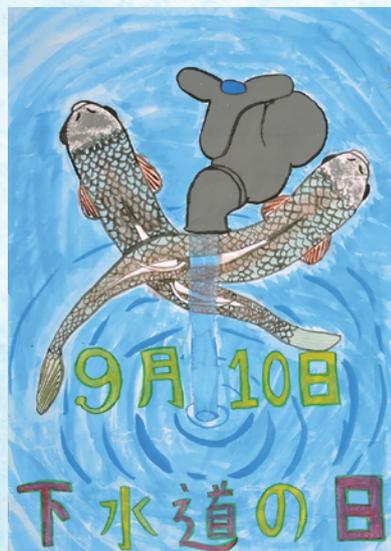
入選



さいたま市立大成小学校 5年
山口 李世



入選



深谷市立岡部小学校 6年
瀬山 奏



埼玉県下水道協会長賞



熊谷市立三尻中学校 2年
加藤 葵



埼玉県知事賞



川越市立霞ヶ関東中学校 2年
宮森 千佳



入選



川越市立初雁中学校 2年
城間 啓太



入選



春日部市立春日部中学校 2年
藤山 晴香



入選



さいたま市立大成中学校 2年
寺田 雪乃

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞



鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小学校 3年

清水 梨音



吉見町立南小学校 3年

増田 珠杏

入選

入選



春日部市立桜川小学校 3年

萩原 慶



川島町立小見野小学校 2年

松崎 俊介

入選

入選

入選



川越市立中央小学校 3年

中村 葵



東松山市立野本小学校 3年

廣瀬 碧音



深谷市立藤沢小学校 3年

峯岸 理乃



埼玉県下水道協会会長賞



埼玉県知事賞



春日部市立桜川小学校 6年
宇田川 萌恵



鴻巣市立広田小学校 4年
齋藤 優香



春日部市立中野小学校 6年
桃木 有沙



川島町立小見野小学校 5年
松崎 俊



川島町立出丸小学校 5年
川畑 早礼



川島町立中山小学校 4年
厚木 瑠奈



上尾市立大石南小学校 6年
相澤 陽菜

埼玉県下水道協会会長賞

埼玉県知事賞



吉見町立吉見中学校 1年
三村 菜々美



春日部市立葛飾中学校 3年
浅井 美紅



春日部市立葛飾中学校 1年
安孫子 柊牙



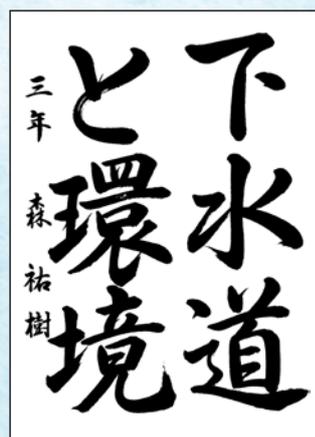
三郷市立栄中学校 3年
岩井 太伸



東松山市立北中学校 3年
若栗 愛樹



春日部市立春日部中学校 2年
三浦 佳菜美



東松山市立南中学校 3年
森 祐樹



埼玉県知事賞

下水道の日

深谷市立上柴西小学校 六年

永野 春衣

私たちは日常生活をしていく中でたくさん
の水を使います。お風呂、洗濯、食器洗い、トイ
リなどさまざまです。その使われた水は、排水
口から家の外の下水道へと流れて行きますが、
下水道に入った水はこの後どこへ行くのだろ
うと知りたくなったので調べてみました。

下水道には、汚れた水と雨水を同じ管に流
す合流式と、汚れた水は汚れた水用の管に、雨
水は雨水用の管に流す分流式があることがわ
かりました。私の住んでいる町は分流式が使
われていました。

使われた汚れた水をそのまま流してしま
うと、川や海が汚れてしまうので、汚れた水をき
れいにする必要があります。それを行う施設
が浄化センターです。汚れた水は浄化セン
ターに集められ、そして魚も住めるようなき
れいな水にして川にもどしています。

汚れた水はどのようにして、透明できれい
な水になっているのでしょうか。

まず、集められた汚れた水の中に含まれて

いるゴミや土を沈ませて、大ざっぱに取り除
きます。次はおどろいたことに、微生物の力を
借りていたことです。微生物を汚れた水の中
に入れると、その微生物が汚れやゴミをえさ
にして食べてくれるのです。ここからきれい
な水作りが始まるんだという事がわかり、微
生物は本当にすごいと思いました。

汚れた水を集めてきれいな水にしてくれる
下水道は、私たちの日常生活を快適にしてく
れる大切な物です。前に両親から昔は下水道
が整備されておらず、生活水をそのまま外
みぞに流していて臭いもひどかったというこ
とを聞きました。トイレも今のような水洗ト
イレではなく落ち着いて居られる場所ではな
かったそうです。

そんな生活を明るくしてくれる大切な下
水道に、水に溶けないゴミや流してはいけない
油などを流してしまい、下水道管をつまらせ
てしまって、自分や周りに住んでいるたくさ
んの人々が快適な生活を失ってしまったらと
思うと、改めてやたらに色々な物を流しては
いけないと心に強く思いました。

水は川から浄水場へ行き、安全な飲み水に
なって私たちの所へ運ばれてきます。そして、
私たちが汚し流した水を浄化センターできれ
いな水にもどして川に流す。これが繰り返し
行われているのです。

「水」は、蛇口をひねれば勝手に出てくる。普

段何の意識もなく使っていますが、今回下水
道について調べたことで、私たちのもとへき
れいな水が届くまで色々なことが行われてい
ることがわかりました。水は限りのある資源
です。今年の関東地方は雨が少なく水不足と
いうことをテレビで放送していました。水が
なくなってしまうたら、私たち人間だけだ
なく、動物や草木なども生きていけません。こ
れからは水の使い方、流し方をもっと考え、水
を出せばなしにしないとか、蛇口をたくさん
ひねらないようにする、台所のゴミはきちん
と捨ててから水を流すなど、自分の生活の中
で出来る事からやっていきたいと思えます。
そして今回調べた下水道のことを学校の友達
にも教えてあげて、下水道の大切さや水の
大切さをみんなで考えられればいいなと思
いました。



埼玉県下水道協会長賞

生活と下水道

川口市立元郷南小学校 六年

石谷 輝

水は生きるために必要です。食べ物も生き
るために必要です。下水道も生きるために必

要です。下水道は影はつすいながらも大きな役割を果たしています。

今すぐしている夏休み。台風が関東地方を直げきし、水の被害が多くなりました。雨はたきのようにふり、道路はあさい川のようにでした。洪水になるのか、と少し心配になりテレビを見ると、山の方では土砂くずれが起きていたり、道路から水がジャバジャバとでて、洪水になっていて川口市とはケタちがいの被害の大きさでした。外を見ると雨水を流しているあみのようなものを見つけました。あれのおかげだ、あれのおかげでテレビのような洪水は起こらないんだ。このような体験があったので、下水道は生活を支えている大切なものだと考え、下水道のことについて関心をもつようになりました。

下水道は四つの役割を果たしています。

一つ目、雨水を処理する下水道。下水道は雨がふったら、雨水ますから雨水を流し、まちの洪水を防いでいます。雨水の処理は、ポンプ場や、雨を一度にためてきれいな水にして流すための雨水貯留池が大活躍し雨水を処理している。

二つ目、汚水を処理する下水道。日常生活のための水も下水道が処理しています。トイレの水、手を洗った水、台所の水などの汚水は、他の汚水と一緒に運んで、下水処理場できれいにして、人々が快適で衛生的に生活できる

ようにしています。

三つ目、環境を守る下水道。人々が川にごみを捨て汚れた川を下水道の整備のおかげできれいにできた川などがあります。最近は高度処理というふつつの汚水処理よりもっときれいにできるものが開発された。下水道は、川や湖をきれいにし、よみがえらせています。

四つ目、処理水と施設の有効利用。高度処理されたきれいな水は公園の池や、電車など大きなものを洗う水としても利用されています。四つ目の役割は、処理水の再利用や施設を有効利用して生活を便利で豊かなものにするはたらきがあります。このように下水道は、四つの役割を果たし、日常生活を支えています。

下水道は日常生活を支えたり、環境を守っています。そんな下水道の存在を忘れず生活していきたいと思っています。でもその意識を忘れないければ、自ら下水道を支えることができると思います。川や湖にごみを捨てなければ、川はひどく汚れることはないと思います。それは下水道のことだけではなく、地球を守ることもつながります。環境にも良いです。そして、今は水をふつうに飲めたり使えたりすることができると自分ですが、その水一滴が宝物という人は世界にはいると思います。だから、今生きていることを幸せに思いたいです。そして水を大切にしたいです。



入選

大切な下水道

川口市立芝中央小学校 四年

飯村 心媛

私は今、四年生で学んでいる社会で、「くらしとごみ」を勉強しています。その学習の予習で「下水道」が出てきました。自分達がふだん使っている一番身近な下水道について、調べてみることにしました。

ふだん、私達は家でも学校でもたくさん水を使っています。昔とくらべて水の使用量はとてもふえていて、人の数がふえると水の使用量もとてもふえます。水道の水は、川などから取り入れられた水が、じょう水場を通じて家や学校にとどきます。じょう水場では、ちんでん、ろか、消どくをして、きれいな水を作っています。

家や学校で使った水は、下水しよ理場へ送られ、しよ理された後、川などに流されます。そこでこの下水しよ理場の役わりは、よごれを取りのぞき、消どくをして、きれいな水にして流すことです。

さらに、下水しよ理された水をさい利用する取り組みが行われています。下水しよ理場できれいにされた水で列車を洗ったり、ふん

水に使うなど、いろいろな取り組みをしていることを知っておどろきました。少し前に学校の授業で学習していた「くらしとごみ」や、「ごみと3R」のリサイクル、リデュース、リユースといった「さい利用」と同じだと感じたからです。

この社会の学習を予習として下水道を調べてみて感じたことは、水は私達にとつてとても大切で、必要なものだと思います。

そして考えたことは、飲み水や料理以外にも使えるようにしたり、ただ水を節約するだけではいけないと思います。

また、お米をといだ水をすてずに、植木や花にあげたりしたほうがいいことだとお母さんにつたえました。

これからも、私達の生活をささえる大切な下水道をわすれずに、頭に入れながら、生活していきたいと思っています。



すばらしいエネルギー

さいたま市立指扇小学校 四年

小久井 琉唯

みなさんはバイオガスを知っていますか？
ぼくは、テレビで下水のふんや尿を利用して

ガスを作り、それを燃料として走るドイツのバスや車、また台所のガスとして利用して料理をするところを見てとてもしよげきを受けました。「くさくないのかな」「どうやってガスを作るのかな」と、きょう味を持ちバイオガスのことについて調べてみました。

バイオガスとは、下水道の汚水などの有機ゴミを発酵こつさせて作るガスのことだそうです。ぼくの心配していたにおいもほとんどないそうです。バイオガスのいいところは、原料となるふんや尿のかく保が安定しているの、電力を安定して得ることができるところ。また、太陽光発電や風力発電などは、天候に左右されてしましますが、バイオガスは天候に左右されないところ。さらに、石油などの化石燃料を燃やした時に出る大量の温室効果ガスを排出しないので温だん化たいさくにとても効果的などころです。このようにバイオガスはかんきょうにやさしいすばらしいエネルギーです。

ドイツはバイオガスの先進国で、ドイツで使う電気の七パーセントをしめています。日本では一パーセント未満ととても少ないです。神戸ではバイオガスを燃料として営業運行している市のバスがあります。北海道にはチヨウザメの水そうを保温することや、ビニールハウスの冷だんぼうにバイオガスを利用して、冬にマンゴーのさいばいをするし設

などがあります。

バイオガスはとてもすばらしいエネルギーなのにどうして日本ではふきゅうしていないのかというと、バイオガスはガソリンとくらべて多くの不じゅん物をふくんでいるため多くの熱量を得ることができずに、ゆ送する時もガソリンと比べると約二倍のお金がかかってしまうことや、日本ではドイツとことなりバイオガス発電し設を専門に作っているプラントメーカーがほとんどないので、プラントを設置するのに輸入をするのでお金がかかってしまうこと、インフラせつびをするのにはばく大なお金がかかってしまうこと、バイオガス発電の技術力がたりないなど多くの問題があり、ふきゅうがむずかしいのです。

ぼくは、下水処理場でふんや尿を浄化するだけではとてももつたいたいなと思いましたが、限りある化石燃料にたよるより、新しいエネルギーとして、お金はかかってしまうかもしれないけれどかんきょうにやさしいバイオガスをもつとふきゅうさせてほしいと思いました。みんながバイオガスのことを知り、ぼくが大人になるころには、いっばんの家庭でもあたり前のようにバイオガスを利用できる、しげんを大切に作る日本になってほしいと思いました。



埼玉県知事賞

いろんな視点からの下水道

加須市立大利根中学校 三年

高井 智子

下水道というと、みなさんは何を思いうかべるでしょうか。私はとにかく、汚いけど大切なものであるという考えでした。しかし、いろいろと調べていくうちに、私が考えていたことと、全然違うことだったのです。とくに興味深い話、おもしろい話などを紹介していきたいと思います。

もしも下水道がなくなったら、私たちの生活はどうなるのでしょうか。まず、雨が降った時に、川に流すことができずに街が水びたしになってしまいます。下水道は雨水などをすいとる働きをしていることがわかります。流れてきた汚い水が、川や海にそのまま流れてしまうと、水質汚濁はもちろんのこと、魚や貝など生物が住めなくなってしまうたり、プランクトンが発生して、赤潮が発生したり

するのです。そんな汚い海や川になってしまったら、とても住みにくくなってしまいます。また、トイレの排水の処理も上手くいかなくなりません。汚れた水が処理されないの、害虫が発生してしまったり、病気が流行したり、悪臭をはなつたりするのです。生活をしていくなかで下水道がないと、不便極まりないのです。

最近、台風が上陸して多量の雨が降ります。テレビの中の光景や、自分の家の近くで水がたまりすぎて、下水道からあふれているのを見たり、経験したことがあります。水によつて足がかくれて、自転車が全然進まなくなってしまう時は、ヒヤヒヤしました。下水道の設備が充実している現在であっても、台風などによる大雨で水があふれてしまうのですから、下水道がない時に大雨が降ったら、と考えると恐ろしいです。昔の人達は下水道がないのにどうしていたのだろうと思えました。普通の雨では、いつもあふれることはあまりないので、そう考えると下水道はすごいなと思います。

下水道から考える歴史的背景も、調べてい

くと、驚きとおもしろさであふれていました。ヨーロッパと日本で比較してみると、周りの環境が下水道と関係していて、下水道の歴史も違うことがわかりました。

ヨーロッパでは、今から三千年前から下水道があったとされています。八百年ほど前に下水道がつかまってしまい、水が流れなくなっていました。町の人達は修理をすることなく、別の方法を考えたのです。それが、汚い水や便、尿などを窓から捨てるという方法でした。これを読んだ時はとても驚きました。今ではあたりまえですが、考えられませんが、汚い水などを窓から捨てるなんて考えたこともなかったからです。当時の人達は汚れることを考えなかったのだろうか、疑問もありました。もちろん不衛生だったので、当時は病気が大流行してしまいました。ヨーロッパで下水道を義務づけたのは、百年ほど前ですから、本当に最近になって気づいたことだったのだと言えます。

日本は、大昔は川や海などで便をしていました。これは、昔のヨーロッパと変わりませんが、日本人々は八百年ほど前から、便や

尿を田んぼや畑の肥料として使うようになったのです。これにより、川や海を汚すことなく、おいしい作物も取ることができ、病気も流行しないという二石三鳥になったのです。しかし、日本でも田や畑が減り、そのかわりに家が建つようになると、便や尿も肥料として使うことが少なくなり、川や海に汚れた水が流れるようになってしまったのです。そのせいで、病気も大流行しました。そして、今から五十年ほど前に、下水道が義務づけられたのです。日本はヨーロッパよりもっと最近だったということに、とても驚きました。

今回作文を書くために調べたり、経験したことを思いだしていくと、下水道は生活する上でなくてはならないものと改めて、感じる事ができました。普段そんなに考えることがないけど、私たちの生活と密接につながっているということがわかりました。下水道があるから、快適にすごせているのだと実感しました。みえない所で水を処理している下水道に感謝しながら、生活していきたいです。



埼玉県下水道協会会長賞

水の循環のために

私達ができる事

川口市立西中学校 二年

長谷川 瑞葵

下水道、それは汚れた水をきれいにするためにあるというイメージしか私にはありませんでした。調べてみると、下水道の役割は、「生活排水の処理」、「快適で衛生的な街づくり」、「雨をすばやく排除して浸水から街を守る」などがあります。他にも、川や湖、海をきれいにしている汚水を浄化して戻すことで水質を保全し水環境をよみがえらせる働きもしています。このように下水道は見えないところで私達の快適な生活を支えていることがわかりました。

私が幼い頃、ゲリラ豪雨のような雨が降ると、家の前の学校から流れ出る水で道が水没し、自分の膝ぐらまで浸水してしまい、学童から帰る時大変だったのを覚えています。

その後、側溝の工事で下水の水はけが改善されて、大雨が降っても浸水しなくなりました。工事をしたのは市の下水処理の人達で雨での浸水も下水道と関係しているのだなと思えました。また、今新しい渋谷駅の建設で地下に広場と貯水槽を整備するという大がかりな工事が行われています。今や夏の風物詩となっている渋谷地下街の冠水もこの工事で大幅に軽減できるかもしれません。また、貯留槽に水をためて、天候が回復した後に排水するという仕組みなので、周辺地域の安全も守ります。このように私の知らない所で浸水から街が守られている事も知りました。

次に注目したのが「水質を保全し水環境をよみがえらせる働き」です。家庭、学校、工場、ビルなどで汚れた生活排水は、下水管を通って下水処理場へ行き、沈砂池や微生物を使いきれいな水になり、川や海へ放流されます。このように下水道は水の循環という役割も担っているのです。また、この下水処理で出来る泥「汚泥」は大変な資源でもあり、今では発電や肥料、レンガ等になり再利用されていることもわかりました。

しかし、水の循環があるからといって水をたくさん使ったり、何でも流していいというわけではありません。例えば天ぷら油をそのまま川に流したら、魚のすめる水にするのに一杯約三〇〇ℓのお風呂およそ四杯分が必要になります。また、油は下水管を壊したり、詰まらせたりします。すると、下水処理場では処理しきれず雨とともに川に流れて水環境が悪くなります。

水環境が悪くならないように何か私達が気をつけられることはないのでしょうか。それは家庭での汚水を減らすことだと思えます。そこで、家庭でできる汚水対策として三つ考えたことがあります。

まずは、台所からの汚水で、調理で出たくずや食べ残しは回収してそのまま流さないようにすることです。また、食器に残った汚れや油は紙などで拭いてから洗うことや味噌汁やめん汁などは、残して捨てることのないように食べきれぬ量を作ることなどです。料理や食事をする時にでも少し心がけることで汚水を減らすことができます。

次に、洗濯で水を汚さないためにできるこ

とは、洗濯は植物成分でできた石けんや無リン洗剤を使い、量をたくさん使わないことです。お風呂で使い終わった残りのお湯を使うと節水にもなります。

三つ目は側溝で水を汚さないためにできることで、家の前の側溝にゴミを捨てないようにつくことです。最近よくポイ捨てが多く、たばこや紙切れが落ちていたので、私達一人一人が気をつけて、側溝が詰まらないようにすることが大切です。これをしないと大雨が降った時、浸水してとても大変な事態になりかねません。なので、定期的な側溝の掃除も必要です。

このように家庭で出た汚水が川で流れないようにするためにできることはたくさんあります。私たち一人一人の日々の心がけが不可欠であるということですね。

この作文を書くことで下水道の役割について学び問題を考え、改善するために必要なことを知ることができました。また、下水道は私達が快適に生活できるように支えてくれていることが分かりました。私達が日々の生活で水を大切に使い、水を汚さないように

一人一人が心がけることで、水の再生や循環を下水道だけにまかせることなく、世界全体が協力して水を大切にし、生活汚水を減らして水質を保全していけると思います。



入選

下水道について

城西川越中学校 一年

小郷 和嗣

先日、新宿駅の地下街に黒い液体があふれたというニュースを見た。東京都下水道局は原因を調査中とのことだが、下水道か何かの配管に異常が発生して、汚水が流れ出たと考えられるそうだ。

つまり、このような汚水は普段見えていないだけで、下水道を通ってどこかへ流れているのだらう。ぼくは下水道の役割について調べ、考えてみたいと思った。

下水道には、雨水を処理する役割・汚水を処理する役割・環境を守る役割・処理水と施

設を有効利用する役割という四つの役割があるそうだ。

雨水を処理しなければ、道路や街が浸水してしまう。排水溝から地下の下水道に雨水を流して、雨水が地上にたまらないようにしている。トイレの水や台所の水、風呂の水など人間が生活の中で使った水は汚水として下水道に流れていく。そのおかげでぼく達は快適で衛生的な毎日を送ることができている。

日本が高度成長期の頃、下水道がまだ整備されていなかったため、汚水が川や海にそのまま流されてしまったそうだ。その結果、川や海が汚れ、魚などの生き物が姿を消してしまったこともあったらしい。現在は下水道が整備されたことで、汚水をきれいにしてから川や海に戻すことができるようになり、水の環境を守っているそうだ。

処理水とは普通の下水処理で取りきれない窒素やリンを取り除いて、もっときれいな状態になった水のことだ。この処理水はトイレを流す水や、電車など大きなものを洗う水として利用されているそうだ。水を安全に再利用することができるのも下水道のおかげ

だ。国立市流域下水道処理場広場は、下水処理場の屋上にある広大な運動スペースだ。このような活用方法もあるとは知らなかった。下水道は汚水を流すだけのものではないのだ。

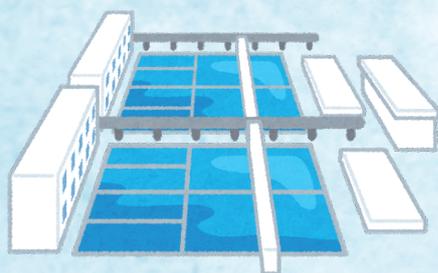
ぼくは下水道が整備されている国に生まれたので、ぼくにとって水洗トイレや風呂を使うことは普通のことである。しかし、それが当たり前だと思っていたが、日本でさえ下水道の普及率は七十七・六パーセントだということにとっても驚いた。ぼくにとっては当たり前でも、下水道が使えない人にとっては当たり前ではないことがたくさんあるのだ。途上国の中には下水道も上水道も両方整備されていない国があり、安全な水を使うことができない人々が伝染病に苦しめられているそうだ。蛇口からきれいな水が出て、使った後は流れていって処理される。それは決して当たり前のことではなく、恵まれたことなのだ。と教えてもらった。

今のぼくにできることは、まず水のむだ使いをしないように気をつけること。風呂の水など、まだ使える水は家の中で洗たくやそう

じなどに使ってみること。食事の後、汚れたお皿をふきとってから流しに入れるようにすること。できることから少しずつやってみたいと思う。

ぼくは科学部に入っている。科学の中にか役に立つこともあるかもしれない。たとえば汚水に似たものを用意して、それをきれいにするにはどうすればよいか調べて実験し、下水処理のしくみについて勉強することもできるかもしれない。

下水道のイメージは暗くて汚くてくさいものだったが、今回調べたことで、人が安全で衛生的な生活を送るために必要で、人だけではなく環境を守るためにも整備していかなければならないのだとわかった。





入選

下水道について考えた夏

川越市立初雁中学校 二年

高橋 愛実

今年の美術の夏休みの宿題は、下水道のポスターを描くことでした。ですが私は、なかなかアイデアが浮かばなかったため、下水道がどのようなものかを知るためインターネットで調べてみることにしました。私たちが

が生活して出てきた汚水や、空から降ってきた雨水は排水口やマンホールから下水道へと流れます。流れてきた下水は沈砂池、最初沈殿池反応タンク、最終沈殿池の順でだんだんときれいになっていきます。きれいになった水はさらに洗浄され、消毒し川や海に放流されます。また、沈砂池や沈殿池などで取り除かれたごみや砂は、汚泥処理施設へと送られ、肥料やレンガ、ガスなどに再資源化されます。

今の日本の技術は高く、下水道の設備は十分に整っていますが、それに頼ってばかりで

はいけないと思います。料理で出た油の大きさ一杯をそのまま排水口に流すと、魚が住めるようになるために必要な水は三百リットルが入る風呂十七杯です。しかも、流した油は下水道に付着し固まります。すると、それが詰まりの原因になり、悪臭を発生させてしまふのです。そんなことが起きたならば、川や海の生き物に影響がないわけはありません。ですから、水を汚さないようにする工夫が必要です。

私は一学期、学校で「エコ・クッキング」を体験しました。「エコ・クッキング」とは環境について考え、水やエネルギーを無駄にせず、ごみも最小限に抑えるようにして料理をすることです。水の汚れを防ぐには、なべや皿を洗う前に汚れを拭き取ったり、洗剤の量をワンプッシュにすることなどです。またごみを減らすには、使う野菜の食べられるところは細かいところまで全て使ったり、生ごみは三角コーナーではなくて、ちらしで作ったごみ入れに捨てるのが効果的です。なぜなら、三角コーナーだと生ごみが水を含んで量が増えてしまうからです。生ごみは、水気を

しっかり切ってから捨てるのが大切です。これらの工夫をすることで、下水道の状態はしっかりと保つことができ、川や海も守ることができます。また、川や海へのポイ捨ては環境悪化の一番の原因なので絶対にはいけないと教えていただきました。

一人一人が環境について真剣に考えれば、行動も変わってきますし、水が汚れてくることなどまずありえないと思います。それに、水がきれいだとよいことがたくさんあります。一つ目は、生き物が住むことです。何となく川や海を眺めていて、泳いでいる魚を見つけると私は嬉しくなります。二つ目は、エネルギーの削減につながることです。エネルギーとは石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料を原料に作られていて、私たちの生活には欠かせない様々な電化製品を動かしているものです。エネルギーを使うと二酸化炭素が発生し、地球温暖化が進んでしまいます。ですから、エネルギーの使い過ぎは環境によくないのです。

なぜ、水をきれいにすることがエネルギーの削減につながるかというと、それは下水道

で下水からごみや砂を取り除き、汚泥処理施設へ送られたときに答えがあります。送られたごみや砂は燃やしたり、圧縮したりします。そして埋立地に埋めたり、他のものに再資源化されます。再資源化されるのはエコですが、やはり加工する際にエネルギーを必要とします。そこで私は、下水道に流すものがきれいだったらよいのではないかと考えました。そうすれば、汚泥処理施設に送られるものは少なくなり、エネルギーもそんなに使わなくて済むからです。それに、ごみが減るということは、埋立地増加の問題も少し緩和されます。

地球温暖化はたくさん動物を困らせません。もちろん人にもです。ですから、地球温暖化を進行させてはいけません。できるだけエネルギーの削減に努めて、地球を壊さないようにするべきです。私たちは限りある資源で生きていかなければならないからです。地球の現状を知り、しっかりと受け止め、環境を未来を守るための暮らしをすることが私たちには必要です。

私は環境を守っていくために、まずは自分

の行動を一回見直そうと思います。ごはんの食べ残しはないか、残した飲み物を流していないかなど、振り返ってみると、かなり環境に悪いことをしていたと思います。もし、今の日本に下水道の設備が整っていないかったとしたら、蛇口から出る水は汚なくて飲めません。雨が降ればすぐに洪水が起こってしまいます。それを想像するのは、なかなか難しいかも知れません。ですが一つだけ、確実に言えることがあります。それは、私たちの生活は下水道があることで安定し、成り立っているということ。生物が生きるのに必要な水。下水道は命を繋いでいると言っても過言ではありません。



●●●●●●●●●● 応募状況 ●●●●●●●●●●

〔 標語部門…部門応募数 925点 〕

〔 ポスター部門…部門応募数 1,149点 〕

小学校低学年の部 234点 高学年の部 519点 中学校 396点

〔 書道部門…部門応募数 19,470点 〕

小学校低学年の部 7,669点 高学年の部 11,193点 中学校 608点

〔 作文部門…部門応募数 86点 〕

小学校 21点 中学校 65点

応募総数 21,630点